

人文研の図書掛になって

人文科学研究所 図書掛 赤木 俊 介

人文科学研究所の図書掛になって一ヶ月余り、日常の業務がどのようなものなのかもいまだ十分に把握しておらず、上司や先輩職員にあれこれ質問するだけで多くの時間を費やしてしまう毎日です。

私が大学図書館に就職したいと思うようになったのは、附属図書館でのアルバイトの経験を通じて、大学図書館の仕事に触れることができたからです。一昨年の9月から今年3月までわずか一年半の勤務でしたが、図書の仕事に携わりながら多くのことを学びました。附属でのおもな仕事は、カウンターの端末を使つての貸出、返却処理と返却された本を配架する作業でした。附属は普段から利用者が多いのですが、試験シーズンの前後は特に増え、返却本を満載したブックトラックがずらりとカウンター奥に並ぶことになります。次々やってくる利用者への対応に追われながら、様子を見て交代で本を書架に返却しにいくという、一般の人が抱く図書館の長閑なイメージとおよそかけ離れた、忙しい仕事だったので当初は驚きと戸惑いの連続でした。このような状況下で仕事を続けていくうちに、効率よく仕事を進めるためにはコミュニケーションとチームワークが必須となるということを実感するようになりました。社会生活を営むために必要となる対人関係能力を図書館でのアルバイトで身に付けることができたのは私にとって大きな収穫であったと思います。

また、このアルバイトでは、利用者の質問を受け付ける参考調査的な仕事もほんの僅かながら行っていました。しかし、実際には、まともな回答はできず、恥をかくだけで終わることが多かったと記憶しています。そのような体験から、高度な専門知識を修得し、利用者が求める情報を的確に提供できるような図書館職員にな



りたいという思いが芽生え始めたのだと思います。

今の職場である人文科学研究所附属漢字情報研究センターの図書室は、昭和初期に立てられた白壁が美しい、スパニッシュ・ロマネスク様式の建物のなかにあります。多くの人が行き交う本部構内と打って変わって閑静な住宅地に位置し、閲覧者も院生、研究者等に限定されているため閲覧室はいつも静まり返っています。この静けさは研究に相応しい環境です。環境の良さは良質の資料が豊富に揃っている点にもいえます。貴重な漢籍が収蔵されている書庫に初めて足を踏み入れたときは、その広さと蔵書量の多さに圧倒されてしまいました。このような素晴らしい環境のもとで仕事ができることを光榮に思っています。

現在、私が行っている仕事は、おもに中国書の見録作成と他大学への文献複写の依頼です。いずれも初めての仕事なので手取り足取り教えていただかないと仕事にならない状態なのですが、そのなかでも特に難しいと感じているのは書誌の修正です。他大学と情報交換をしながら、コンピューターに入力された書誌と実物とを比較し、書誌を再検討する過程は、面白い作業で

す。しかし、中国書に関するさまざまな知識が
要求されるので、この種の書籍に触れる機会が
あまりなかった私にとっては困難に思われるこ
とも多く、日々頭を悩ましています。今後、一

日でも早くこの方面の知識を得て人文研の図書
掛の名に恥じないよう、スムーズに仕事がこな
せるようになれたらと考えています。

(あかぎ しゅんすけ)

シネマ・クラシック

淀川長治解説付き
世界クラシック名画の上映

7月4日(木) 14:00 — 16:45

“映画の父”グリフィスが画期的な映像表現を創造した映画100年史上
最大のスペクタクル
題名は人間の心の狭さが生む “不寛容”
同時進行する4つの時代の物語がクライマックスではひとつに結集する
画期的なスケールの巨大セットも話題

イントレランス

監督・脚本：D.W.グリフィス
出演：リリアン・ギッシュ他
1916年 アメリカ作品 サイレント

場所：附属図書館3階AVホール

第2～第4木曜日はCDコンサートを開催中です。

気軽にゆったりと聞きに来てください。勉学で疲れた心を癒しに！